

土塁築造の推定図

### 御所ヶ谷神籠石の土塁

神籠石の土塁は、朝鮮半島から伝わった版築<sup>はんちく</sup>という方法で作られています。版築とは板で枠をつくり、土や砂利を入れ一層ごとき固めながら積み上げていく工法です。

御所ヶ谷神籠石の版築は積み上げられた土の層が70～80層に及ぶ堅固なもので、基礎部分には方形の切石が並べられています。土塁の中や前からは工事の支柱穴が多数みついています。

このような土塁を山中に数キロにわたって築くには多大な労働力が必要だったことでしょう。



版築土塁と柱穴

### ヒモヅル

御所ヶ谷一帯ではさまざまな植物がみられますが、特に注目されるのがヒモヅルです。

ヒモヅルはヒカゲノカズラ科に属する常緑性のシダ植物です。茎は蔓状に伸びて長さ数mに達し、付近の木にからみついて生育します。本来熱帯性の植物で、インド、フィリピン、マレーシア、台湾などに分布します。国内では現在、九州と本州の一部で確認されていますが、環境省によって絶滅危惧種に指定されています。



県内でも本市の御所ヶ谷の中門から住吉池に注ぐ溪流沿いだけに自生する、きわめて貴重な植物です。平成24年に福岡県の天然記念物に指定されました。

## 御所ヶ谷神籠石へのルート



■お問い合わせ■

行橋市教育委員会 文化課

〒824-8601 福岡県行橋市中央1丁目9番2号

TEL 0930-25-1111 FAX 0930-25-1582

http://www.city.yukuhashi.fukuoka.jp/

### 行橋市歴史資料館

休館：火曜日（火曜日が祝日の場合は次の平日）・8月15日・12月28日～1月4日

〒824-0005 福岡県行橋市中央1丁目9番3号

TEL・FAX 0930-25-3133

2019.6 第6版

## 国指定史跡

Historic Site designated by the national government

# 御所ヶ谷神籠石

Goshogatani Kogoishi Ancient Mountain Fortification



中門跡

### 「御所ヶ谷神籠石」の概要

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 指定種別  | 史跡                                    |
| 指定面積  | 442,475 m <sup>2</sup>                |
| 所在地   | 福岡県行橋市大字津積<br>福岡県京都郡みやこ町勝山大久保・犀川木山    |
| 指定年月日 | 昭和28年(1953)11月14日<br>平成10年(1998)9月11日 |

行橋市教育委員会

# ▲ 古代の山城 ▲ 御所ヶ谷神籠石



## 【神籠石】とは何か

「神籠石」とは久留米の高良山の列石が古くからそう呼ばれていたことになってつけられた遺跡名です。かつては神聖な場所を区画するための施設だという説もありましたが、発掘調査によって列石を基礎とした城壁（土塁）で山を囲んだ古代の山城であることがわかりました。「御所ヶ谷城」と呼ぶほうがわかりやすいのですが、明治時代以来の「神籠石」という名前が今も使い続けられています。最近では、このタイプの古代の城を「神籠石系山城」と呼ぶこともあります。

## いつ何のためにつくられたか

神籠石系山城は築造の記録が残されていませんが、発掘調査の結果7世紀後半頃に築かれたと考えられています。このころわが国は百済救援のために朝鮮半島へ出兵し、唐・新羅と戦火を交えましたが、663年白村江の戦いで敗退しました。その後、唐・新羅軍の侵略に備え防人と烽（のろし）を配置するとともに大野城、基肄城、金田城など山城を築き国防体制を強化しました。神籠石系山城もこの戦いの前後に国土防衛のため築かれたと考えられます。

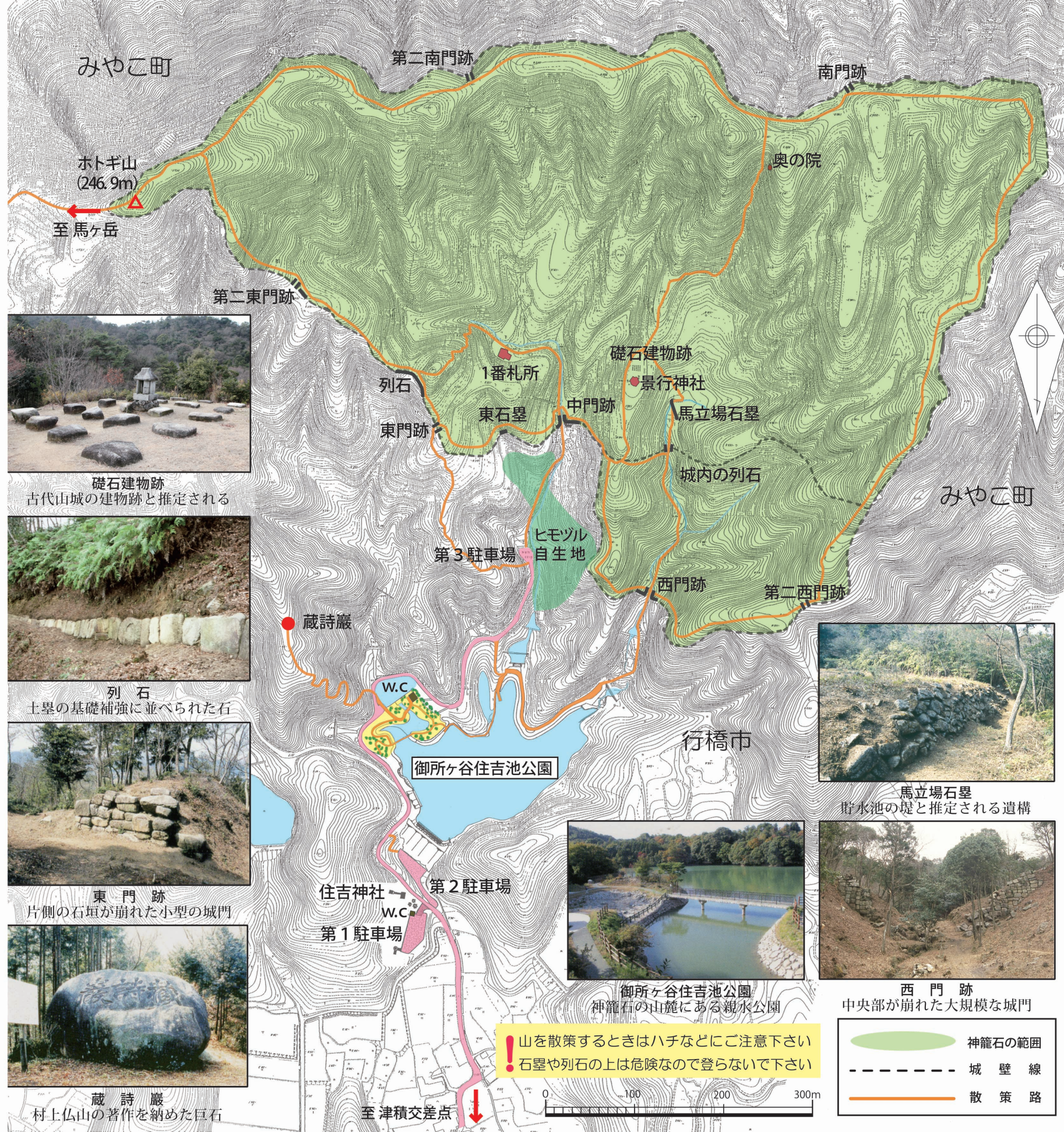
## 御所ヶ谷神籠石の特徴

御所ヶ谷神籠石は、標高 246.9m のホトギ山から西に伸びる尾根の主に北斜面に広がる遺跡です。城の外周は約3kmで、地形の険しいホトギ山山頂周辺を除いて2km以上にわたって、版築工法で築かれた高さ3～5mの土塁をめぐらせています。土塁が谷を渡る部分は通水口を備えた石塁が築かれます。7つある城門跡のなかでも、花崗岩の切石を巧みに積み上げ通水口を設けた中門跡の石塁は壮観です。城内には建物の礎石や貯水池の跡と思われる遺構、未完成の土塁などもあります。

各地の神籠石系山城のなかでも、御所ヶ谷神籠石は大規模な石塁や土塁に象徴されるように城としての完成度が高く、当時の中央政権が京都平野を北部九州の防衛の要として重視したことを示しています。



御所ヶ谷神籠石の推定復元図



礎石建物跡  
古代山城の建物跡と推定される



列石  
土塁の基礎補強に並べられた石



東門跡  
片側の石垣が崩れた小型の城門



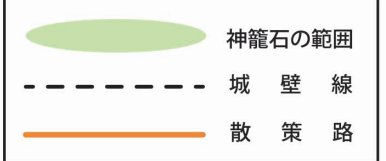
蔵詩巖  
村上仏山の著作を納めた巨石



馬立場石塁  
貯水池の堤と推定される遺構



西門跡  
中央部が崩れた大規模な城門



山を散策するときはハチなどにご注意下さい  
石塁や列石の上は危険なので登らないで下さい

